

東海市立平洲小学校			○教育目標				
住所 東海市荒尾町片坂1番地			・心をはぐくみ 体をきたえ たくましく生きる児童の育成				
電話番号 052-603-0024 児童 785名			○地域の特徴				
校長名 田川 弘樹 ｸﾗｽ32学級(内特支8)			・開校117年の伝統があり、平洲コミュニティを中心に各関係団体がまとまっており、学校への支援も協力的である。				
中期目標	今年度の目標	評価方法(アンケート項目)	結果の分析		成果と課題	学校支援協議会評価【実施日】令和6年2月25日	来年度の改善策(誰が何をどうする)
全般(評価B)	・一人一人を大切にするとともに、集団としてまとまりのある学校	児童1 教師1 保護者1 地域1	(1)児童結果 1「平洲小学校が好きである」 ○2.9%増加(80.9%→83.8%) (2)教師結果 1「平洲小学校は誇れる学校である」 △7.7%減少(92.5%→84.8%) (3)保護者結果 1「平洲小学校は、よい学校だと思う」 △2.6%減少(83.9%→81.3%) (4)地域結果 1「平洲小学校は、よい学校だと思う」 △2.6%減少(67.7%→65.1%)	・児童、保護者、地域はほぼ横ばいの結果であるが、教員1の減少が大きい。今年度は教員の欠員や補充が不定期に起こり、その度に教員配置や担当教科が変更になるという不安定な状態が続いたことが影響していると考えられる。	・教師の評価から、教員の負担の大きさがうかがえる。身体的にも、体力的にも疲弊していない心配である。 ・余裕のある職場環境への改善が必要。人員配置の工夫で解消されるのか。 ・教員不足は学校や地域だけでは根本的に解決することは難しい。保育園も同様の現状である。有資格者の確保のあり方について考えていきたい。	・教員それぞれの強みを生かし、弱みを補い合う適材適所の教員配置をさらに進める。 ・子ども一人一人の理解に努め、全職員で全児童を育てる協力体制を強化する。 ・学校支援ボランティアや学生ボランティアの活用推進を図る。	
確かな学力の保障(評価B)	・授業力の向上による児童の学習意欲と学力の向上 ・ICT機器の効果的な活用	児童10, 11, 12 教師11, 12, 13 保護者6	(1)児童結果 10「先生の授業は分かりやすい」 △0.1%減少(88.9%→88.8%) 11「授業では話をよく聞き、よい姿勢で受けている」 △5.9%減少(76.9%→71.0%) 12「授業では、進んで学習に取り組んでいる」 △2.8%減少(78.6%→75.8%) (2)教師結果 11「授業では、基礎基本の徹底を図っている」 △6.2%減少(97.5%→91.3%) 12「子どもの意欲を引き出すような、分かりやすい授業を実践している」 ▲13.0%減少(100.0%→87.0%) 13「現職教育の主題を意識した授業づくりに努めている」 ▲3.0%減少(90.0%→87.0%) (3)保護者結果 6「先生は、分かりやすい授業をしている」 ○0.9%増加(74.6%→75.5%)	・児童、保護者の授業のわかりやすさはほぼ横ばいと読み取れるが、教員の自己評価が下がっている。本年度授業研究の主題が変更となり、暗中模索したことが想像でき、それは教員が自身の授業改善に真摯に取り組んだ結果であると読み取れる。	・教員の評価の減少は、変化の時期にさしかかったという説明で納得できる。 ・画一的な授業ではなく、教員の個性や能力を生かした授業を目指すことで学力向上に向かうのではないかと。 ・児童用タブレットの活用で集中した関心を高めたりした姿があった。より活用が進むことが大切である。	・授業研究の目標・目的の共通理解 ・教務主任及び現職教育主任による授業研究の手立ての精選及び授業への具体的な落とし込み方について全職員での検討と周知の実施。 ・学校教育目標と関連した具体的な手立ての提示 ・統一的な学習規律の構築と定着。	
心豊かな人間性の育成(評価B)	・正しい価値観のもと、自ら考え行動する児童の育成	児童3 教師4 保護者10, 12 地域3	(1)児童結果 3「学校のきまりを守って、学校生活を送っている」 △3.8%減少(87.3%→83.5%) 4「子どもはルールを守って学校生活を送っている。」 △5.1%減少(72.5%→67.4%) (3)保護者結果 10「お子さんは、学校や社会のルールを守っている」 ○1.7%増加(86.1%→87.7%) 12「家庭では、お子さんに『いけないことはいけない』ときちんと教えている」 △0.7%減少(96.8%→96.1%) (4)地域結果 3「子どもは、社会のルールを守っている。(地域で見かける姿から)」 ▲17.2%減少(70.7%→53.5%)	・児童3、教師4の結果及び児童11の学習規律の意識の希薄化を踏まえ、児童の規範意識の低下が読み取れる。保護者10の結果が増加していることから、学校生活での規範意識の向上が課題である。 ・地域3の減少が顕著だが、減少分の大半が「分からない」と回答した割合の増加となっている。地域と子どもたちの繋がりが希薄化していることを意味している可能性がある。 ・学校経営方針にも謳われている個の尊重について、教員は意識を高くしているが、児童13が微減であるので、伝わっていない児童もいる。	・教師の児童理解と丁寧な対応への意識が高いのは素晴らしい。学校全体で児童に寄り添い、大切に育てようという思いをもって指導に当たっていることがうかがえる。 ・児童は学校では開放的に、元気に過ごしているように見える。 ・保護者の意識と教員や地域の大人の意識が乖離している。保護者ともっと向き合い、保護者の意識を変えていく必要がある。 ・家庭と学校が対立するのではなく、同じ思いで対応できると良い。 ・学校での問題行動を家庭で話し合えるよう、情報提供すると良い。 ・地域との繋がりを深め、児童の不安や課題の早期発見、見守りにつながると良い。	・生活指導主任及び指導部会を中心とした生活規律の継続した意識化と、全職員で共通理解し、継続的に統一的な指導を実施する。 ・民生委員、主任児童委員等地域で児童と関わる方々の情報交換会で共有した学校の様子や児童の様子を地域へも周知していく。 ・学校の様子や思いを伝える機会を増やすため、学校公開の活用や、学年懇談会や学級懇談会など、保護者と教員が直接向き合う機会を増やす場面を設定する。 ・児童が認められていると感じる場面を増やすため、教員が高い意識で見付けたそれぞれの良さを、児童に伝えるように具体的に認め褒める。	
	・困難を抱える児童の理解と適切な指導支援	児童2, 6, 13, 14, 15 教師2, 6, 7, 保護者2, 3, 7, 11	(1)児童結果 2「毎日の学校生活が楽しい」 △0.5%減少(81.6%→81.1%) 6「やさしい言葉かけや思いやりのある行動を心がけている」 △1.5%減少(86.6%→85.1%) 13「先生はがんばったことをほめてくれる、みとめてくれる」 △2.5%減少(84.1%→81.6%) 14「学校で困ったことがあったとき、相談できる先生がいる」 △1.3%減少(71.5%→70.2%) 15「学校行事では、みんなと協力して行っている」 ○0.1%増加(90.1%→90.2%) (2)教師結果 2「子どものよいところを認め、褒めている」 △0.0%(100.0%→100.0%) 6「互いに助け合い、励まし合う心を育て、いじめのない集団づくりに努める」 △0.0%(100.0%→100.0%) 7「子どもの言葉に耳を傾け、親身になって児童理解に努めている」 △0.0%(100.0%→100.0%) (3)保護者結果 2「お子さんは、学校生活を楽しんでいる」 ○1.3%増加(85.8%→87.1%) 3「お子さんは、学校行事で活躍している」 ○3.9%増加(61.6%→65.5%) 7「学校は、子どものよいところを認め、褒めている」 △1.2%減少(78.9%→77.8%) 11「学校は、思いやりの心を育て、いじめのない学校づくりに努めている」 △1.1%減少(64.3%→63.2%)	・学校や地域ではあいさつが向上してきている。家庭でのあいさつ、規則正しい生活リズムの励行が課題である。 ・1学期後半から2学期初めまで、朝から暑さ指数が危険を超える日が毎日のようにあり、放課に運動場で遊ぶことや、体育で屋外競技をすることができない期間が長くなっている。そのため、運動量の確保が難しく、課題である。	・あいさつのできる児童が増えたのが良い。児童が主体的にあいさつができるようになる活動をしていることが中学校にもつながって良い。 ・地域でのあいさつができていないのは良いことだと思う。地域でのふれあいが増え、声をかけあうことが増えたのであればこれほど良いことはない。 ・規則正しい生活リズムは家庭によっては難しい。児童自身が生活の中で必要な習慣を身につけていけるよう指導すると良い。	・PTAや学校支援協議会と協力し、家庭でのあいさつや規則正しい生活リズムについて奨励する。 ・老朽化した設備や備品によるけがをなくするため、安全点検を確実に実施し、不備のあるものについては早急に修繕する。 ・夏季は体育館をより活用できるように、授業だけでなく放課の開放等も含め活用計画を見直す。	
健康の増進 体力の向上(評価A)	・あいさつと笑顔のあふれる学校 ・基本的な生活習慣の指導の充実	児童4, 5 教師3 保護者13, 14 地域2	(1)児童結果 4「早ね・早おき・朝ごはんなど規則正しい生活を心がけている」 △3.4%減少(74.7%→71.3%) 5「自分からすすんであいさつをしている」 ○2.9%増加(80.6%→83.5%) (2)教師結果 3「子どもは元気よくあいさつをしている。」 ○13.3%増加(65.0%→78.3%) (3)保護者結果 13「家庭で、お子さんは早寝早起きなど規則正しい生活を送っている」 △0.6%減少(81.2%→80.6%) 14「お子さんは、家庭や学校、地域などであいさつをしている」 △2.5%減少(79.6%→77.1%) (4)地域結果 2「子どもは、『おはようございます』などのあいさつをきちんとしている」 ○9.7%増加(64.7%→74.4%)	・75%ほどの保護者が学校の対応を肯定的に評価している。 ・家庭と学校の变化から、保護者と学校の時間がずれ、家庭への連絡が取りにくい状況に教員が負担を感じている。 ・ブログ更新の方法を変更したことで更新が滞ってしまった。 ・地域4, 5の減少が目立つが、地域3同様に「分からない」と回答した割合が2～3割ほどあり、地域と子どもたちの繋がりが希薄化していることを意味している可能性がある。	・ブログは教育活動を広く伝えていくには大切なツールである。全職員で更新するシステムを作ると良い。 ・地域と児童の繋がりが希薄化しているのは、町内会加入者と児童が参加する地域行事の減少という地域問題の影響がある。未加入世帯には地域行事の案内が届かないため行事の存在自体が伝わらず、地域と児童の接点ができにくい。そのため、地域で児童を育てることがなかなかできていない現状がある。 ・よりよい社会の形成のため、地域と学校の連携及び協働は大切である。	・PTAや学校支援協議会と協力し、家庭でのあいさつや規則正しい生活リズムについて奨励する。 ・老朽化した設備や備品によるけがをなくするため、安全点検を確実に実施し、不備のあるものについては早急に修繕する。 ・夏季は体育館をより活用できるように、授業だけでなく放課の開放等も含め活用計画を見直す。	
	・環境への配慮が行き届いた学校 ・学びの場、育ちの場にふさわしい環境の充実	児童8 教師9 保護者4	(1)児童結果 8「けがをしないよう安全に気をつけて生活している」 △2.0%減少(83.4%→81.4%) (2)教師結果 9「安全・安心に過ごせるよう教室や学校環境の整備に努めている」 ○2.8%増加(95.0%→97.8%) (3)保護者結果 4「学校は、子どもの健康や安全に配慮し、適切な対応をとっている」 △2.2%減少(81.2%→79.0%)	・学校では、外で元気よく遊んだり、体育の授業ですすんで運動したりしている △3.4%減少(78.4%→75.0%) (2)教師結果 8「外で遊ぶように勧めたり、体育の授業で運動量を確保したりと子どもの体力向上に努めている」 △8.0%減少(95.0%→87.0%)	・75%ほどの保護者が学校の対応を肯定的に評価している。 ・家庭と学校の变化から、保護者と学校の時間がずれ、家庭への連絡が取りにくい状況に教員が負担を感じている。 ・ブログ更新の方法を変更したことで更新が滞ってしまった。 ・地域4, 5の減少が目立つが、地域3同様に「分からない」と回答した割合が2～3割ほどあり、地域と子どもたちの繋がりが希薄化していることを意味している可能性がある。	・ブログは教育活動を広く伝えていくには大切なツールである。全職員で更新するシステムを作ると良い。 ・地域と児童の繋がりが希薄化しているのは、町内会加入者と児童が参加する地域行事の減少という地域問題の影響がある。未加入世帯には地域行事の案内が届かないため行事の存在自体が伝わらず、地域と児童の接点ができにくい。そのため、地域で児童を育てることがなかなかできていない現状がある。 ・よりよい社会の形成のため、地域と学校の連携及び協働は大切である。	
地域連携(評価B)	・家庭・地域との連携・協働	教師5, 14 保護者5, 8, 9, 15 地域4, 5	(1)教師結果 5「報告・連絡・相談をし、学年、学校で連携・協力して迅速な対応に努めている」 ○2.5%増加(97.5%→100.0%) 14「保護者との意思疎通を積極的に図り、保護者の願いや声を指導に生かしている」 △5.9%減少(95.0%→89.1%) (2)保護者結果 5「学年・学校だよりやホームページ(ブログ)、授業参観を通して、学校の様子が分かる」 ▲10.9%減少(82.8%→71.9%) 8「学校は相談しやすく、問題が起きたときにすぐに対応してくれる」 ○2.6%増加(73.2%→75.8%) 9「学校からの依頼があれば、できるだけ協力したいと考えている」 △0.5%減少(75.3%→74.8%) 15「学校公開や学校行事に積極的に参加している」 ○0.6%増加(91.0%→91.6%) (3)地域結果 4「子どもは、地域の行事によく参加している」 ▲22.8%減少(64.7%→41.9%) 5「地域と学校の連携が図られており、協力して子どもの教育にあたっている」 ▲12.3%減少(58.8%→46.5%)	・75%ほどの保護者が学校の対応を肯定的に評価している。 ・家庭と学校の变化から、保護者と学校の時間がずれ、家庭への連絡が取りにくい状況に教員が負担を感じている。 ・ブログ更新の方法を変更したことで更新が滞ってしまった。 ・地域4, 5の減少が目立つが、地域3同様に「分からない」と回答した割合が2～3割ほどあり、地域と子どもたちの繋がりが希薄化していることを意味している可能性がある。	・ブログは教育活動を広く伝えていくには大切なツールである。全職員で更新するシステムを作ると良い。 ・地域と児童の繋がりが希薄化しているのは、町内会加入者と児童が参加する地域行事の減少という地域問題の影響がある。未加入世帯には地域行事の案内が届かないため行事の存在自体が伝わらず、地域と児童の接点ができにくい。そのため、地域で児童を育てることがなかなかできていない現状がある。 ・よりよい社会の形成のため、地域と学校の連携及び協働は大切である。	・ブログ更新を全職員で行うことを一層強化し、学校の様子が保護者や地域へ伝わるようにする。 ・家庭連絡の方法について、緊急の連絡以外は計画的に進め、就業時間内に済むようにする。また、内容の性質により、電子媒体、電話連絡、紙媒体など、方法を精選する。 ・平洲コミュニティ主催の放課後のスポーツ事業「Hei!Heisyu スポーツデイ」への協力など、地域との連携をより強化するとともに、その活動を周知することで、より一層地域と学校の連携をはかる	